CITY × UNIVERSITY

大阪市立大学広報誌

Vol.19
October 2015

Osaka City University 135th
都市で学び 夢をつかむ

CONTENTS

●P1 特集1
都市防災最前線
～都市防災教育研究センターをPICK UP!～

●P3 特集2
リポート イノベーション・ジャパン2015

OCU TOPICS
●P5 Research／幸田正典教授（理学研究科）・富永和作准教授（医学研究科）
●P6 Education／医学部創立70周年記念事業を開催 ほか
●P7 Researchers／稗田健志准教授（法学研究科）
岩間伸之教授（生活科学研究科）・久保正二病院教授（医学研究科）

●P8 @Campus
オープンキャンパス2015を開催
「平成26年度特別研究員等審査会専門委員表彰」を受彰
ボート部が「第93回全日本選手権大会」で準優勝
ほか

●P9【追悼特集】
南部陽一郎 特別栄誉教授

●P10 大学サポーターだより

OCU INFORMATION

CERD（サード）
Center of Education and Research for Disaster Management

特集1

都市防災最前線

～都市防災教育研究センターをPICK UP!～

CERD（都市防災教育研究センター）の概要

平成27年3月1日に開設された都市防災教育研究センターでは「いのちを守る」を第一に考え、巨大複合災害に向けて、大阪を基盤に最新の災害研究、情報技術、都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立を目指しています。

本学が提案した「公立大学防災センター連携による地区防災教室ネットワークの構築」が、科学技術振興機構（JST）が実施している、科学技術コミュニケーション推進事業 問題解決型科学技術コミュニケーション支援「ネットワーク形成型」の平成27年 新規採択企画に、採択されました。今年度「ネットワーク形成型」に採択されたのは全国で応募36件中2件、教育機関としては全国で本学のみです。今後、大阪府立大学・兵庫県立大学・岩手県立大学と連携の下、防災に関するさまざまな取り組みを実施します。

今、注目の都市防災教育研究センターの活動をご紹介します。

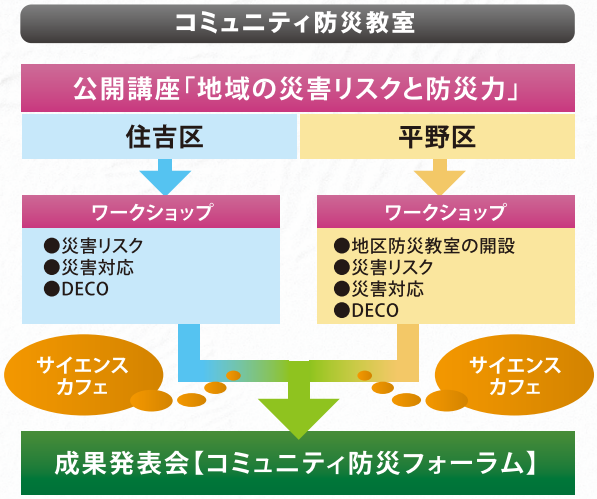
都市防災教育研究センター　森 一彦 センター所長
生活科学研究科教授

都市防災教育研究センターが考える「地区防災教室ネットワーク」は、地域の自助共助の防災教育の仕組みとなるもので、今年度は多彩なアクティブラーニング型防災教育の社会実験を行う「コミュニティ防災教室」が開催されます。

「コミュニティ防災教室」では、さまざまなワークショップが用意されているのが、大きな特徴です。今年度は、平野区と大学のある住吉区を対象に活動します。

まず、それぞれの地区の災害リスクを地理的・社会的データに基づき解説した上で、地域の防災力としてどのような対応が必要なのかを解説し、パネルディスカッションを行い地域の皆さまと議論を深めます。ワークショップではその実践として、地区内のまち歩きを通じて、地震時の家屋倒壊、道路閉鎖、火災発生、避難所や避難所へのサインなど、災害発生時のリスクや避難路等の確認を行い、地図上だけでは分かりづらいことも実際に足を運ぶことで理解していただきます。

また、災害対応においては、「いのちを守る」ことが大切です。実際に避難する際に必要な体力を確認するために体力測定による避難力の把握、要援護者を避難させるための介助方法なども、車椅子やリアカーを活用して体験するというワークショップも開催します。



ワークショップの最後には、それまで得た知識・体験を活かし、「すごい防災訓練DECO（Disaster Evacuation Coaching）」で、タブレット端末を用いた実践的な防災訓練を行います。

プログラムを通しての成果報告・情報共有は、防災研究座談会である「サイエンスカフェ」や成果発表会である「コミュニティ防災フォーラム」で行われ、今後の課題について意見交換も行われる予定です。

防災教育ユニットリーダーの生田です

防災教育ユニットでは、本学の学生向けには「COC※地域実践演習Ⅱ」「COCアゴラセミナーⅠb」、学外の市民向けに「コミュニティ防災教室」を提供しています。加えて、「コミュニティと防災（総合教育科目）」を学生と市民の両方に提供しています。いずれの科目も分野横断組織であるCERDのメンバーが中心となって、受講生とともに理論と実践を学べる内容になっています。コミュニティ防災に必要な知識を単に教授するだけではなく、実際の地域においてリアルな防災を学ぶアクティブラーニング型の教育プログラムが特徴です。

※COC … Center of Community

生活科学研究科
生田 英輔 講師

災害リスクユニットリーダーの重松です

「地域の災害リスクを知る」ことを目的として活動しています。自然災害からいのちを守るためには、住民自らが生活圏内に存在するリスクを正しく知り、それに対する対応/対策を日常生活の中で培っていかなければなりません。これを支援する学習ツールのひとつとして、リスク学習Eラーニングサイトを構築しています。学習した知識を活用するためには、自らの地域を防災の観点で見直し、どのような災害を想定しておかなければならないのか、想定される災害に対してどのように対処すべきか、現状をどのように改善すべきかを考えることが必要です。そのため、コミュニティ防災教室を開催し、防災まち歩きを実践しています。

工学研究科
重松 孝昌（たかあき） 教授

都市防災教育研究センター
サード
〈CERD〉
ユニットリーダーと主な取り組み

センター副所長の三田村です（都市防災ミュージアム担当）

センターでは、過去の災害の履歴や災害対応に向けた備えなどをよりよく理解できるよう、都市防災ミュージアムとして効果的にわかりやすく解説した資料を整え、展示を行う予定です。ここでは、災害への備えとして必要な機材や食品の事例、災害時の避難所設営などで日常から活用している機材をどのように利用できるかなどを紹介します。また、関西圏をはじめとして多様な自然災害の記録を収集し、GIS※を用いて地盤や街の構造などと重ね合わせが容易に確認できる資料提示を進めます。収集した各種の資料は、大学の地域実践演習や地域と連携して実践するコミュニティ防災教室などを通して、災害リスク学習や防災訓練などに活用します。

※GIS … Geographic Information System

理学研究科
三田村 宗樹 教授

災害対応ユニットリーダー渡辺です

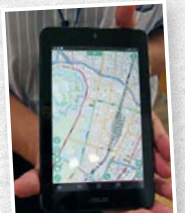
災害時の防災力を高めるためには、自助、共助による地域コミュニティの総合的な防災力を高める必要があります。災害時に発生する様々な事象に対して的確に判断し、対応できる技術と能力を身につけることが重要です。本ユニットでは、いのちを守る力ドリルの開発および災害時の医療と避難所の健康問題（医学、看護学）、避難行動に必要な技術、体力・避難力（健康・スポーツ、作業療法）、福祉的配慮のある避難所（社会福祉学）、災害時情報・通信の活用（情報・通信工学）、消火および救助の方法（消防局）等の様々な領域からアプローチし、災害時の対応力を高めます。

都市健康・スポーツ研究センター
渡辺 一志（ひとし） 教授

社会実装マネジメントユニットリーダーの佐伯です

「防災知の社会実装」では、具体的にはセンターのメンバーが開発した防災教育プログラムを、コミュニティの方々に広めていくことを通して、コミュニティの防災力を強化することを目指しています。その一環として、防災教育を盛んに行っている小中学校や自治会を、「いのちラボ」という名前の防災拠点として認証する試みを行っています。現在進行中のプロジェクトとして、文学研究科の教員や近隣の方々と一緒に運営しているコミュニティ劇団「スミヨシ・アクト・カンパニー」の活動があります。演劇活動を通して、平常時からご近所同士の良好な関係を築くことが、コミュニティの防災力を促進すると考えています。

文学研究科
佐伯 大輔 准教授



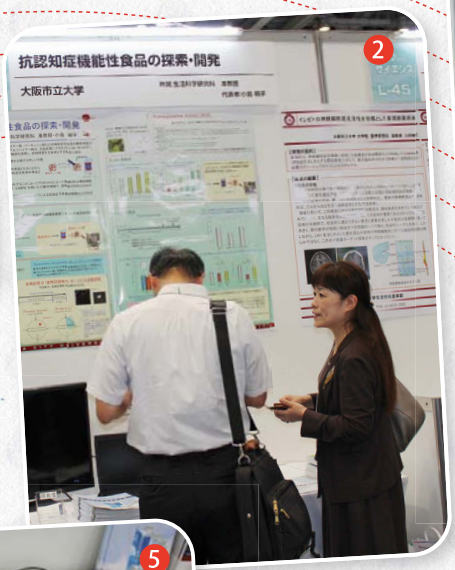
Innovation

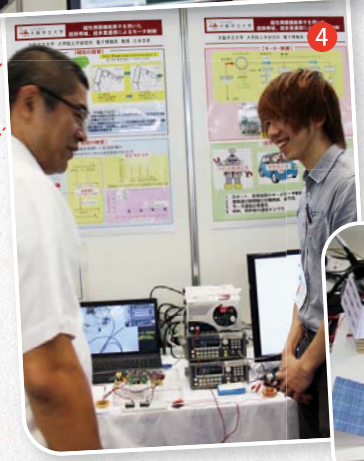
特集 2 リポート

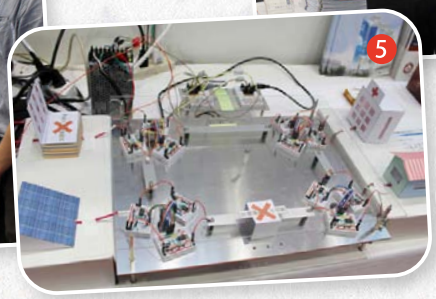
イノベーション・ジャパン 2015

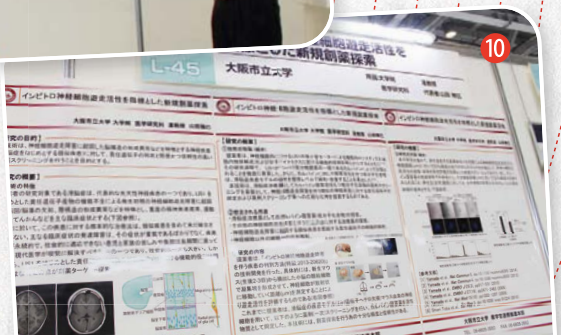
本学より5テーマの発表！

今年で12回目を迎える『イノベーション・ジャパン』は、国立研究開発法人の科学技術振興機構（JST）と新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）による国内最大規模の大学見本市・産学マッチングイベントです。平成27年8月27日（木）・28日（金）の2日間にわたり、東京ビックサイトで開催されたこのイベントには、両日合計で２万人以上の来訪者が訪れました。熱気に満ちた会場の様子やプレゼンテーションの模様をご紹介します。





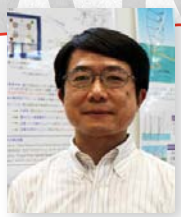




JAPAN 2015

出展した先生方よりひと言

分散型電源の普及を促進するパルス化配電ネットワークの開発



工学研究科
杉山久佳准教授

電力自由化が大きな話題となっていることも作用したのか、電力関係だけでなく、住宅設備、商社、メーカー、他大学、ベンチャー企業など、バラエティに富んだ業界の方から問い合わせをいただき、改めて本研究への取り組み意欲が高まりました。デモへの関心も高く、コストやメリット、実装時についてなど具体的な質問が多かったですね。実りの多いイベント出展でした。

写真：1 ブース前にて　5 電力供給デモ　13 展示シミュレーション調整中

インビトロ神経細胞遊走活性を指標とした新規創薬探索

医学研究科
山田雅巳准教授

このような産学イベントへの出展は初めてでしたが、多くの問い合わせをいただき、研究を進める上での励みになりました。学会での研究者向けの発表とは異なり、より一般的な語彙で来訪者に説明する必要がありますが、ある意味、医学知識の少ない下級生向けの授業で専門用語を分かりやすく説明するのに似た部分もあります。総じて良い経験になりました。

写真：7 プレゼンテーション実施中　10 ブースの展示ボード

疲労・ストレス測定および抗疲労ソリューション開発

健康科学イノベーションセンター
渡辺恭良（やすよし）センター所長

本センターはうめきた・グランフロント大阪で活動展開し、日頃より幅広いジャンルの方を対象としたイベントや活動紹介、講座等を行ってきた経験もあり、今回の出展においても本センターの強みや実績を十分に訴求できたのではないかと感じています。関心を寄せていただいた企業や団体、研究機関の中から、新たな共同研究先やアイデアの交換先が生まれることを期待しています。

写真：6 堀センター副所長によるプレゼンテーション　9 疲労測定中…
12 測定結果についてご説明

磁性薄膜機能素子を用いた超狭帯域、超多重通信によるモータ制御

工学研究科
辻本浩章教授

現場が困っていることを解決できる技術の提供、コスト減、操作性の向上に寄与したいと常に考えていますが、本イベントではモーター関係の会社や、産業機械に注力している企業からアプローチがあり、手ごたえを感じています。このような展示会では営業の方など、技術の専門家でない方に興味を持っていただく必要があり、院生のトレーニングの場としても有用ですね。

写真：3 ブース前にて　4 院生も説明お手伝い　11 デモ機による実演

抗認知症機能性食品の探索・開発

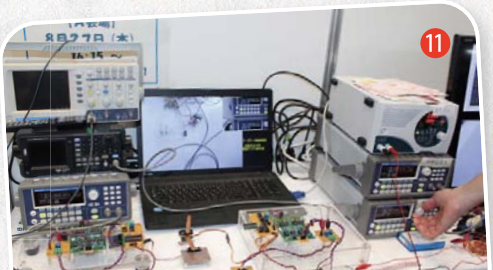
生活科学研究科
小島明子准教授

食品、薬品会社のみならず、学会ではあまり接点のない介護施設関係者など幅広い分野の方に興味をお寄せいただいたことで、認知症が大きな社会問題であり関心が極めて高いことを改めて感じました。お問い合わせの中には、急を要しており、早く実現して欲しいという声もありました。本イベントへの出展は、研究成果を社会に還元するきっかけとなったと感じています。

写真：2 ブースにて説明中　8 プレゼンテーション実施中

ダイジェストを
「市大YouTubeオフィシャルチャンネル」
にてご覧いただけます

https://www.youtube.com/user/ocuchannel



RESEARCH

魚類で確認された論理的思考能力
～動物行動における従来の常識覆す発見～

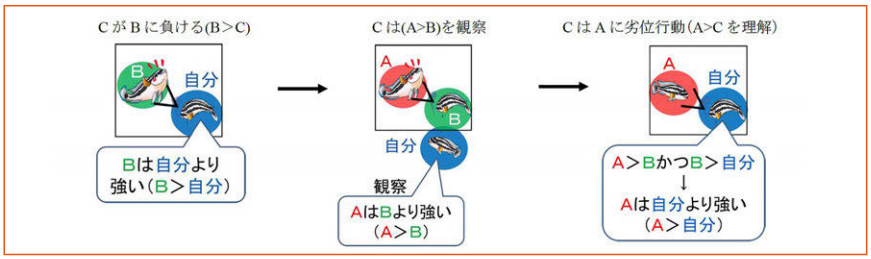
幸田 正典 教授

理学研究科の幸田正典教授らの研究グループは、魚類の一種において、「A＞BかつB＞CであればA＞Cである」という論理的な思考が可能であることを証明しました。

実験はA、B、Cの同じ大きさのジュリドクロミス（カワスズメ科の一種）を準備し、2匹ずつ水槽に入れて行いました。BとCを闘わせた後、負けたCにAとBが闘っている様子を観察させます。AがBに勝った場合、CはA＞BかつB＞CであるからA＞Cであると考え、CとAを同じ水槽に入れるとCがAから逃げようとします。AとBが闘う様子をCに見せなかった場合は、CはAと闘おうとするため、魚でも論理的思考があると考えられるわけです。12匹中11匹で同じ行動が見られました。

このような方法に基づく検証は哺乳類、鳥類に関しては例がありますが、魚類では例がないため、魚類に対する見方が変わる発見と言えます。

闘争中のジュリドクロミス



研究者クローズアップ

理学研究科 幸田 正典 教授

想像どおり先生は小さい頃から生物に興味があり、いくら世間でラジオ製作やプラモデルが流行ろうと見向きもせずに、近くのため池や野山で自然に親しみながら過ごしていたそうです。釣り好きの父親と一緒に和歌山の海にもよく出かけていました。今も海に潜るたびに新しい発見がある!と目を輝かせています。

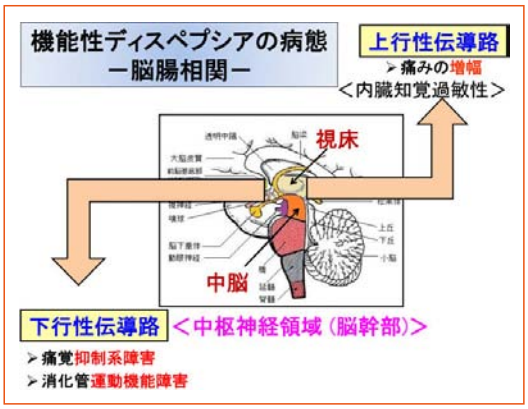
上腹部症状（みぞおちの痛みやもたれ）と脳内セロトニントランスポーターの機能変調の関連を証明

富永 和作 准教授

医学研究科 消化器内科学の富永和作（とみながかずなり）准教授らのグループは、胃腸に明らかな粘膜傷害（粘膜の傷）は認められないが、6ヶ月以上前から持続するみぞおちの痛みやもたれ等の症状のある機能性ディスペプシア患者において、脳内セロトニントランスポーター結合脳に差異が認められ、その結合能とディスペプシア（痛みやもたれ）症状に相関性があることを明らかにしました。

富永准教授らの研究グループは、人の感情に影響を与える脳内神経伝達物質であるセロトニンに着目し、9名の患者と8名の健常者の脳内を比較しました。その結果、中枢と末梢を橋渡しする中脳・視床において、両者に共通のセロトニンの調節を行っている物質の量に変調があることを確認しました。

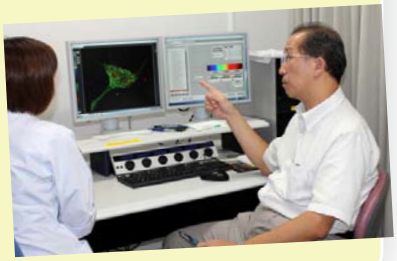
このことより、機能性ディスペプシア患者において、中枢領域も重要な治療ターゲットの一つであることが判明し、既存の消化器病薬以外にも、中枢あるいは神経伝達系に作用する薬剤など、新たな治療戦略開発に繋がる可能性が示唆されました。



研究者クローズアップ

医学研究科 富永 和作 准教授

胃腸の痛みやもたれの症状と脳の関係を追及する先生の頭の中は、研究のことで一杯ですが、たまの息抜きはスポーツジム。市大生時代は医学部野球部に所属していたスポーツマンなので、運動はお手の物。ジムで汗をかき、サウナで汗を流し、大阪のおいしいものを食べ歩きリフレッシュしているそうです。



EDUCATION

医学部創立70周年記念事業が開催されました

平成27年6月7日（日）、ホテルニューオータニ大阪において、医学部の創立70周年記念事業が開催されました。

医学部の源流は、昭和19年4月の北区西扇町「大阪市立医学専門学校」の創立および同年、阿倍野区旭町の「大阪市立南市民病院」を附属病院としたことに遡ります。その後、昭和23年に旧制の大阪市立医科大学が開設され、数年おいて昭和27年に新制の大阪市立医科大学が誕生しました。この医科大学が大阪市立大学に編入されたのは、昭和30年のことでした。戦後の混乱期から今日までのこの70年間にわたり、多くの優秀な医師・研究者を輩出してきました。

創立70周年記念式典は、ホテルニューオータニ大阪の鳳凰の間に400名を越える参加者を迎えて午後４時に開会。荒川哲男医学部長および生野弘道医学部同窓会長による開式あいさつの後、ご来賓の和歌山県立医科大学の岡村吉隆学長、大阪市立大学全学同窓会の児玉隆夫会長から祝辞を頂戴しました。続く記念講演は、本学医学部薬効安全性学の三浦克之教授を座長とし、講演者として京都大学iPS細胞研究所から本学卒業生でもある山中伸弥教授を迎えました。「iPS細胞がひらく新しい医学」をテーマに、ご自身が医学を志されたいきさつ、iPS細胞研究との出会い、そして今後の展望について、市大時代のエピソードなども交えて熱心にお話いただきました。

第2部の祝賀会では、西澤良記学長より開会のあいさつのあと来賓の祝辞等を多数賜り、これまでの医学部を振り返り、思い出話や今後の医学部のあり方などについての懇親が行われました。

荒川医学部長による開式のあいさつ

ご来賓のみなさま

生野同窓会長によるあいさつ

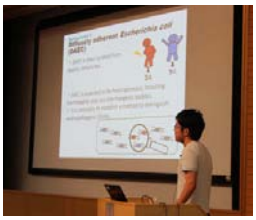
山中教授による記念講演

「大学院生のための英語プレゼンテーション演習」を開催

平成27年7月7日(火)、学術情報総合センターにて生活科学研究科主催の「大学院生のための英語プレゼンテーション演習～国際学会での発表に向けて～」が開催されました。

この取り組みは、国際学会などにおける英語発表を成功に導くための表現力・実戦力を身につけ、総合的なプレゼンテーション力の向上を図ることを目的に、研究科として初めて開催したものです。

西川禎（よしかず）一生活科学研究科長の趣旨説明のあと、院生たちが本番さながらの研究発表を行いました。今回講師としてお招きした高津和彦先生より、発表の様子を動画で振り返りながら、聴衆の注意を引きつけてより印象的に伝えるためのポイントなど、適格なアドバイスを頂きました。今回の演習は主に英語のみで進行し、受講者全員での発声練習など声を出す機会も多く、活気に満ちた有意義なものとなりました。


前期博士課程2年生の能重匠さんによる発表

高津講師によるご指導

CR副専攻科目「アゴラセミナーIb」で石巻、女川などを訪問しました

本学では、所属する学部の主専攻に加えて、全学部生が受講できるコミュニティ再生（CR）副専攻制度があります。これは、学部横断的に、複数の専門領域から地域課題にアプローチするスキルを学ぶためのプログラムです。履修科目の一つである、フィールドワーク型の授業「アゴラセミナーIb」では、CR副専攻のうち、「環境・防災」分野について、2年生12名が平成27年8月18日（火）～21日（金）に、宮城県石巻市などを訪問し被災者の方や復興支援に関わる方と交流することで、講義や映像だけでは実感できないことを学んできました。

石巻では東日本大震災の語り部さんから震災の時の様子を伺い、津波による被害や避難経路、仮設住宅、復興住宅などを当時の状況を解説してもらいながら見学しました。また、復興支援活動についても学ぶことができ、今後の活動に繋がる大きな経験となりました。

石巻で被災された語り部さんのお話

被災地の見学

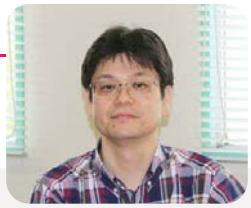
RESEARCHERS

法学研究科　稗田 健志 准教授

法学研究科というと法曹を思い浮かべますが、稗田准教授の担当は政治学。政治社会学博士で、比較政治を専門に研究しています。国内の高齢者介護をはじめとする福祉政策を研究しているうちに、社会福祉・社会保障制度がどうして多様なのかという点に関心が及び、福祉国家論を研究するようになりました。

日本国内だけを見るのではなく、海外の政策とも比較して考えようと、アメリカのコロラド大学ボルダー校で2年、イタリアフィレンツェの欧州大学院[illegible]間に渡り、海外で主に[illegible]等の研[illegible]

生活科学研究科 人間福祉学科　岩間 伸之 教授



岩間教授は、社会福祉援助（ソーシャルワーク）の理論研究を専門にしています。近年は、「地域を基盤としたソーシャルワーク」の理論化に力を注いできました。また、今年（平成27年）4月に施行された生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者自立支援制度の構築にも関わってきました。この制度は、経済的な困窮や社会的に孤立した状態にある生活困窮者の自立生活を支え、また地域における多様な社会的つながりを提供しようとするものです。

この制度を推進していくためには、行政関係者や専門職のみならず、近隣住民、ボランティア、NPO、企業等、多様な地域の関係者による連携と協働が不可欠です。この取り組みの理論的基盤となるのが「地域を基盤としたソーシャルワーク」です。「総合相談」という方法を用いて、一人ひとりの状況に合わせたオーダーメイドの援助を展開していきます。「個を地域で支える援助」と「個を支える地域をつくる援助」を一体的に推進していくことに主眼が置かれます。とりわけ、この実践においては、深刻な状況に至る前に働きかける「予防的支援」が重視されることになります。

人口減少社会の到来を前に、これまでの自助・共助・公助といった枠組みを超え、制度依存からの脱却を図り、さらに住民総出で支え合う地域社会を創出できるか。未知の地域社会を拓くための突破口は、小さな地域で支え合うしくみづくりにあるはずと岩間教授は説きます。

◆アナザーサイド

岩間教授が社会福祉学を志したのは、人の生活を支える仕事に携わりたいという理由からです。本学教育後援会が選ぶ優秀テキスト賞の受賞経験もあり、そのわかりやすい解説から、この10月は、4週にわたって、NHKラジオの社会福祉セミナーの講師を務めています（テーマ:社会福祉の援助）。趣味は、アンティーク時計の蒐集で、「オールドロンジン」のコレクターでもあります。

医学研究科 肝胆膵外科学　久保 正二 病院教授

医学部附属病院は肝切除患者数が全国有数で、肝胆膵外科領域の拠点病院となっていますが、そのリーダーとして活躍しているのが久保病院教授です。

大阪は慢性肝疾患患者が多く、またそれに関連した癌患者が多いため、早くから肝細胞癌や肝内胆管癌の病態の解明や治療法の開発に取り組み、世界に先駆けて「経皮経肝門脈枝塞栓術」という手術法の開発、肝癌治療における肝炎ウィルス病態の解明、肝内胆管癌の原因解明や治療法確立、さらに肝癌ステージング改訂に取り組んできました。現在、原発性肝癌取扱い規約委員や肝癌診療ガイドライン作成委員として、日本におけるこの領域の臨床と研究を率いています。

最近では、大阪市内で印刷労働者に多発した胆管癌（職業性胆管癌）に関して、「大阪市大がやらなくてどこがやる！」という強い使命感を持ち、原因追究、特徴的臨床所見や発癌メカニズムの解明、治療法の確立にいち早く取り組み、昨年のWHOでは原因化学物質である1,2-ジクロロプロパンとジクロロメタンの発癌リスク評価の変更に貢献しました。現在、職業性胆管癌臨床・解析センター長として、臨床と研究のみならず1,2-ジクロロプロパンに従事した労働者に対する検診業務も行っています。

◆アナザーサイド

手術が巧いがん外科医として雑誌等で紹介される久保病院教授。頭の中では24時間常に医学のことを考えていますが、医師や教育者の顔以外にも、医学部オーケストラの顧問として音楽家の顔、地元の少年ラグビー部で幼稚園から中学生までの心身の成長を見守るコーチの顔、と多彩な顔を持っています。

オープンキャンパス2015を開催

平成27年8月6日(木)、7日(金)は阿部野キャンパスにおいて、8日(土)、9日(日)は杉本キャンパスにおいてオープンキャンパス2015が開催されました。

どの日も厳しい暑さの中、開場前から多くの方が並んで下さり、両キャンパス合わせて4日間で21,000人以上もの方々にご来場いただき、過去最高の来場者数となりました。学部説明会、個別相談会、体験会などの他、入試や就職についての説明会、海外留学や理系女子学生による相談会、保護者説明会など、趣向を凝らしたプログラムが実施され、大盛況でした。

医学部でのスキルスシミュレーションセンター体験

賑わう杉本キャンパス

「平成26年度特別研究員等審査会専門委員表彰」を受彰

左より理学研究科丸信人准教授、西澤良記学長

理学研究科の丸信人(まる のぶひと)准教授が独立行政法人日本学術振興会(JSPS)より表彰を受け、平成27年8月28日(金)に西澤良記学長より表彰楯が手渡されました。

平成21年度より、特別研究員等の選考に際し、書面審査における有意義な審査意見を付した専門委員が表彰されておりますが、平成26年度については書面審査を行った約1,600名の専門委員のうち、表彰対象となる任期2年目にあたる約600名の中から114名が表彰されています。

ボート部が「第93回全日本選手権大会」で準優勝!

平成27年9月10日(木)～13日(日)に埼玉県戸田ボートコースにおいて開催された「第93回全日本選手権大会」の「男子舵手つきフォア」競技において、ボート部が「準優勝」の快挙を成し遂げました。

今回は、全国各地区を代表する社会人実業団および大学が出場し、合計24チームで争いました。ボート部は、今年創立125周年の節目の年を迎えましたが、今までで一番よい成績を収めたと言えます。

メダルを手に嬉しそうな準優勝のメンバー

コンサートバンドが堺支援学校との交流イベントを開催!

コンサートバンドによるドリル演奏を楽しむ堺支援学校のみなさん

平成27年9月8日(火)、堺支援学校の生徒の皆さんと交流イベントを開催しました。毎年9月に学校を訪問して行うこのイベントは、今年で33年目になり、生徒の皆さんに楽しみにしていただいています。

座奏演奏とドリル演奏後、昼食交流会が開かれ、最後に少人数でのアンサンブル演奏を行いました。迫力ある生演奏に、生徒の皆さんから多くの手拍子をいただき、演奏後はアンコールの拍手が鳴りやみませんでした。

新入生保護者懇談会が開催されました

平成27年5月30日(土)、杉本キャンパスにおいて、教育後援会が主催する今年度の新入生保護者懇談会が開催され、およそ180名の出席がありました。

「全学懇談会」では、金児曉嗣(かねこ さとる)教育後援会長のごあいさつの後、西澤良記学長のあいさつ、井上徹副学長から本学の歴史の紹介や教育の特色について、就職支援室長から最近の就職環境や就職支援について、それぞれお話がありました。

金児曉嗣 教育後援会長

「学部別懇談会」、及び「懇親会」では、日頃の学生の勉学や、学生生活全般についての懇談や意見交換が行われ、活気ある懇談会となりました。

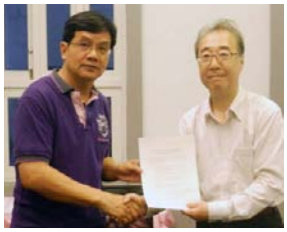
学部別懇談会の様子

大阪市立大学バンコク拠点の設置について

平成27年4月30日に中川眞(しん)国際センター所長(文学研究科教授)がチュラロンコン大学と調印を交わし、同大学芸術学部内に大阪市立大学バンコク拠点を設置しました。

チュラロンコン大学は、タイ王国で最も古いトップクラスの国立大学で、平成14年以来本学の複数の研究科と部局間協定を結び、平成25年には大学間包括協定を締結しています。

本バンコク拠点は、協定を締結しているタイの各大学との交流拠点の機能も有し、留学生獲得、同窓会ネットワークの推進、学術交流や産学連携の推進などのミッションを持っています。



スッパコーン・ディサタパン芸術学部長(チュラロンコン大学)(左)と握手を交わす中川国際センター所長(右)

【追悼特集】 南部 陽一郎 特別栄誉教授

南部（なんぶ） 陽一郎（よういちろう） 本学 特別栄誉教授・名誉教授が平成27年7月5日ご逝去されました。南部特別栄誉教授は、昭和24年9月に理工学部助教授として本学に就任され、翌25年3月に教授となられ、31年8月までご在籍されました。

現代の素粒子物理学の基礎となる「自発的対称性の破れ」の理論により、平成20年にノーベル物理学賞を受賞されています。

南部 陽一郎 特別栄誉教授 ご経歴

1942年(昭和17年)　東京帝国大学理学部物理学科卒業
1942年(昭和17年)　東京帝国大学理学部嘱託研究員など
1949年(昭和24年)　大阪市立大学理工学部助教授
1950年(昭和25年)　大阪市立大学理工学部教授（～1956年（昭和31年）8月まで在籍）
1952年(昭和27年)　米プリンストン高等研究所に勤務
1956年(昭和31年)　シカゴ大学助教授
1958年(昭和33年)　シカゴ大学教授
1978年(昭和53年)　文化勲章受章
1978年(昭和53年)　大阪市立大学名誉教授
1991年(平成３年)　シカゴ大学エンリコ・フェルミ研究所名誉教授
2008年(平成20年)　ノーベル物理学賞受賞
2011年(平成23年)　大阪市立大学特別栄誉教授

追悼のコメント

南部陽一郎特別栄誉教授のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。私ども大阪市立大学にとって大きな損失であり、悲しみに耐えません。南部先生におかれましては、本学創設期に理工学部物理学科の礎を築いてこられました。在職中から理論物理学の分野において国際的に高く評価されており、退職後もシカゴ大学において数々の研究業績はもとより、理論物理学界における世界の第一人者にあげられております。ご生存中の多大なる功績に敬意を表するとともに、数々のご教訓に感謝を申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

大阪市立大学学長　西澤 良記

特別栄誉教授称号贈呈式後の学生との懇談会で、参加した学生に向け「分野を超えて勉強することです。そして先生・生徒、先輩・後輩という立場の違いを超えて学び、互いに刺激しあって研究することが大切です」と、温かくも力強く言われた時の先生の目がキラキラと輝いていたのが強く印象に残っています。心からご冥福をお祈りいたします。

理学研究科　櫻木 弘之 教授

理学研究科の大学院生の時に懇談会で南部先生とお話しする機会を頂きました。質問に快くお答えいただき、お人柄の良さを窺い知りました。また「閃きを少しずつ育てていく。繰り返し考えていると少しずつ何かが進んでいく。」というお言葉は研究の励みになりました。その言葉を胸にこれからも努力していきます。心より先生のご冥福をお祈りいたします。

数学研究所 研究所員　樋ノ上 和貴さん

左より櫻木弘之理学研究科教授、西澤良記学長、南部陽一郎特別栄誉教授、糸山浩司理学研究科教授（平成23年6月特別栄誉教授称号贈呈式後撮影）

追悼シンポジウムを開催しました

平成27年9月29日（火）、学術情報総合センター10階大会議室において、南部陽一郎特別栄誉教授の追悼シンポジウム「学部生・大学院生・研究者が学ぶ南部先生の偉業」（本学主催）が開催されました。

このシンポジウムは、南部特別栄誉教授と交流のあった糸山浩司教授はじめ本学理学研究科数物系専攻の教員が、「南部先生の偉大な業績を後世に伝えたい」という思いから企画しました。

本学に在職されていた頃に始まる南部先生の数々の研究業績のうち、最も代表的なものを振り返り、今日に至るまでの発展の歴史、今後の展望が議論されました。学外学内合わせて9名の研究者が、学部生にも分かる初歩から解説、講演し、他大学からの学生も交えて、他に例を見ないユニークなシンポジウムになりました。シンポジウム終了後も、懇親会で活発な議論が行われました。

シンポジウムの様子

山脇幸一
名古屋大学
名誉教授

藤川和男
東京大学
名誉教授（理研）

南部陽一郎先生にちなんだ本学のスポット

◆南部ストリート

平成24年6月に、JR杉本町駅の東改札設置に伴い生活科学部北側に開通しました。

南部先生が市大生に向けて書いて下さった色紙を銘板にし、南部ストリートの入口である杉本門近くに掲示しています。先生が贈って下さった言葉は「学而不思則罔、思而不学則殆」。論語から引用された言葉で、「物事を学んでばかりで自分で考えようとしなければ、深くは理解できない。自分で考えるばかりで学ぼうとしなければ、独りよがりになり危険である」という意味です。

◆理学部棟の壁

平成26年1月に完成した理学部棟のエントランスホールの壁面は、ノーベル賞受賞の対象となった「対称性の自発的破れ」をモチーフとしています。

第14回ホームカミングデー開催！ 懐かしい顔と顔、大学が皆さんをお迎えします！

平成27年11月3日（火・祝）「つながる力 2015～生まれかわった市大キャンパスへかえろう～」をテーマに第14回ホームカミングデーを開催します。

今年は創立135周年を迎え、大学にとっても大きな節目の年にあたります。在校生や保護者、卒業生の方々に喜んでいただけるよう、教職員が一体となって、このホームカミングデーを盛り上げていきます。

オープニングイベントでは、西澤学長のあいさつに続き、本学OGでもある松永桂子氏（本学創造都市研究科准教授）のお話、その後、特別講演として本学卒業生の瀬戸山隆三氏（オリックス・バッファローズ執行役員球団本部長）に、長年野球界に関わって来られた経験をテーマにお話しいただきます。

また、学生が自ら先輩方を案内するキャンパスツアーは、午前10時スタートとなります。

各同窓会・クラブ・サークルOB会によるイベント、学長主催のウェルカムパーティーなど、メニュー盛りだくさんで皆さまのお越しをお待ちしています。

第65回銀杏祭（10月31日～11月3日）も同時開催していますので、ぜひお越しください。

※最新情報については、大阪市立大学ホームページ、各同窓会ホームページ等でご確認ください。

田中記念館がリニューアルオープン 新たな活用を目指して！

約1年の改修工事を終え、平成27年8月6日（木）にリニューアル完成式典が開催されました。座席を入れ替えた他、音響・映像機器は利用者が使いやすい最新の機器を導入しました。

第1部ではテープカットを皮切りに、ホールのお披露目では、まず、学長から「創立135周年の記念の年に、このような改修や設備の充実がなされたことを嬉しく思います。教育後援会および同窓会より寄贈いただいたホールの舞台幕も素晴らしいものです。建物というハード面の充実を受けて、どのように活用していくかというソフト面について、学生、同窓生、教職員の皆さんで知恵を出し合い、魅力ある「集い場」となるよう協働していってください。」とあいさつがありました。その後、邦楽くらぶ、グリークラブ・南澪会によるデモンストレーション、応援団による演舞披露が行われ、第2部ではホワイエで懇親会が開催されました。

この田中記念館は、故田中吉太郎氏（1876～1968）の寄贈により1975（昭和50）年に開館しました。このほど「はばたけ夢基金」の寄附をもとに、その精神を受け継ぎ、より魅力のある交流の場へと生まれ変わりました。

皆さまのご来館を心からお待ちしています。

「ふるさと寄附金」を活用して、大阪市立大学を応援してください！

平成27年4月より寄附控除額が2倍になりました！

ふるさと寄附金（納税）は、税金の使い道を選択できる（使途を特定できる自治体への寄附）制度です。

平成27年4月より、「大阪市ふるさと寄附金」メニューに「市立大学振興関係」が追加され、寄附金が直接大学支援に活用されることになりました。

寄附金は、学生ホールの整備（食堂等の建て替え）、グローバル人材の育成（留学渡航費用支援・英語環境等の整備）に役立てます。ふるさと寄附金は所得に応じ、寄附額のうち2,000円を超える部分について、所得税と住民税から（原則として）全額が控除される制度です。皆さまお一人お一人のお気持ちが、大阪市立大学の教育環境充実につながります。この機会にぜひ、下記ホームページをご覧いただきご検討ください。

市立大学振興関係　検索

※大阪市ふるさと寄附金「市立大学振興関係」をご参照ください。

OCU INFORMATION

大阪市立大学創立135周年記念フォーラム　日本経済新聞社共催
「都市大阪の創生～未来への提言～」を開催します

開催日時：2015年12月18日（金）13時～16時45分
開催場所：グランフロント大阪ナレッジシアター

平成27年度に大阪市立大学が創立135周年を迎えたことを記念して、都市の未来と新しい世紀へつながる大学の使命を広く社会に問うため、本フォーラムを開催します。

基調講演では、本学OBであり総合資源エネルギー調査会長の要職にあるコマツ相談役の坂根正弘氏に「ダントツの強みを磨け～企業と国の構造改革」というテーマで、続いて東京大学教授の吉見俊哉氏に「大学の未来～21世紀、人生で3回大学に入る時代が来る～」というお話をしていただきます。さらに特別対談では、大和ハウス工業（株）代表取締役会長兼CEOの樋口武男氏とシンクタンク・ソフィアバンクの藤沢久美さんが「関西発! グローバル企業への成長の軌跡」というテーマで対談します。

また、ファシリテーターに藤沢久美さんを迎え「成熟と創生の交わるところ、都市大阪の未来へ」というテーマで、本学教員である渡辺恭良（健康科学イノベーションセンター所長）、鈴木洋太郎（経営学研究科教授）、中尾正喜（複合先端研究機構特命教授）、長尾謙吉（経済学研究科教授）嘉名光市（工学研究科准教授）の6名によってパネルディスカッションを展開します。都市大阪の現状や課題分析から、都市ならではのハードやソフトの資産の活用について、あるいは将来に向けたビジネス創造について幅広い視点から、話し合います。そこから見えてくる新たな都市の可能性、未来に向けての提言をお聴きください。

参加申込みの詳細については、本学ホームページ（http://www.osaka-cu.ac.jp）をご覧ください。

就職支援室より イベントのお知らせ　全学部・全学年対象

21世紀セミナーSPECIAL　講演形式
昨年より参加企業数が増え、更に充実!初参加企業3社決定!!

■11月5日（木）～17日（火）　■11月20日（金）～26日（木）

昨年度より実施し、今年で2回目となる「21世紀セミナーSPECIAL」を開催します。今注目の各業界を代表する企業1日1社を限定とし、これからの就職活動に向け「業界」について詳しく、より深く知るためのセミナーです。

21世紀セミナー 日程決定!!　ブース形式

【第1ターム】12月1日(火)～22日(火)
【第2ターム】 1月8日(金)～27日(水)
※12月14日(月)・1月14日(木)は公務員限定の21世紀セミナーを実施します。

参加企業数は1日13社、延べ340社程度を予定しており、さまざまな業界のビジネスについて広く知ることができ、職業に対する興味が高まるとともに、自らの将来について考える機会となります。〈開催時間12時～17時〉1日で複数の企業ブースを回ることができます!

詳細は決まり次第、全学ポータルサイト・本学ホームページ・就職支援室前の掲示等でお知らせしますので、随時ご確認ください。

大阪市立大学広報誌
CITY × UNIVERSITY Vol.19

発行：公立大学法人 大阪市立大学
企画・編集：法人運営本部 広報室
デザイン協力：desk
発行日：2015年10月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
大阪市立大学 法人運営本部 広報室
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
e-mail：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点
大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス
商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科・本部
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス
医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585　大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト
大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001　大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

http://www.osaka-cu.ac.jp